ハタチ基金

活動報告書
2024-2025

苦しく辛い経験をした子どもは、誰よりもつよくやさしくなれる。
被災地の子どもたちの成長は、私たちの希望です。



公益社団法人ハタチ基金

〒164-0001
東京都中野区中野5丁目15番2号
TEL：03-3228-5033

https://www.hatachikikin.com



2025年9月発行

0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの支援事業が助成の対象です。

ハタチ基金

ハタチ基金は、
東日本大震災発生時に０歳だった子どもが、
無事にハタチを迎えるその日まで、
心のケアや学び・自立の機会を継続的に提供します。

ハタチ基金は「震災が理由の『できない』をなくし、どこに生まれても、どんな経験をしても、『人生は自分で創っていける』と子どもたちが思えるような機会を提供したい」という想いで活動しています。本報告書では、2024年度の活動内容や成果を、写真やエピソードとともにまとめております。日頃からあたたかく見守ってくださる皆さまへの感謝を込めて、日々の取り組みをご報告させていただきます。

より詳細な各団体の支援内容等はメルマガをご覧ください。





2031年 復興のその先を切り開く力を、子どもたちに。











代表理事よりご挨拶

はじめに、令和７年２月に発生した岩手県大船渡市の山林火災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。約１ヶ月にわたる鎮火までの間、どれほどのご不安があったことかとお察しいたします。

火災発生から４日後には、かつてハタチ基金で助成させていただいた団体が県を越えて連携し、子どもたちの居場所が臨時で開設されました。こうした迅速な対応には、東日本大震災で得た教訓が着実に活かされていることを実感いたしました。

「東日本大震災の影響を受けた子どもたちが、20歳になるまで支え続ける」と決意し、スタートしたハタチ基金も14年目を迎えました。この10年以上の間、多くの子どもたちがたくましく成長する姿を見届けてきました。「地元で働きたい」と挑戦する青年たちや東北の外で起こった災害にボランティアとして駆けつけた若者たちと出会うたび、これまで支援を続けてきたことの意義を、深く実感します。

一方で、人口減少の影響により、子どもが自由に遊べる場所や多様な体験活動の機会の減少を課題とする地域も増えてきました。また、経済的に厳しい状況に置かれた家庭も少なくなく、子どもの健やかな成長に不安を抱えるケースも見受けられます。特に近年の厳しい社会・経済情勢の中で、こうした課題はより顕在化しているように思われます。

第二期復興創生期間の終了が近づくなか、行政サポートの縮小や支援団体の撤退により、被災地で暮らす子どもを取り巻く環境には、今後もさまざまな影響が及ぶと予想されます。そうした状況だからこそ、地域に根差し、子どもたちに寄り添い続ける東北の支援団体の存在が、ますます重要になってきます。

ハタチ基金ではこれからも、子どもたちが安心して未来に希望を描けるよう、東北の子ども支援の取り組みを支えてまいります。引き続き、皆さまのあたたかいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



公益社団法人ハタチ基金
代表理事

今村 久美

現場からの声

［子どもの声］

子どもの「やってみたい！」をかたちにする場　～遊び・体験・関わりの中で～

NPO法人にじいろクレヨン／小学1年生（活動：にじいろみんなの居場所プロジェクト）



にじいろクレヨンに通う子どもたちは、工作・調理のアート活動や農園・ひろばでの体験活動に参加し、思い思いに、のびのびと過ごしています。今回は小学1年生の利用者、ゆうりくんの成長について紹介します。

アート活動や畑での体験を通して、ゆうりくんはたくさんの「楽しかった」を積み上げて来ました。初めは場の空気に慣れるまで時間がかかる様子もありましたが、少しずつやりたいことや気持ちを自分から言葉にできるようになってきています。

畑で採れた野菜を活用したラーメン作りでは、おいしそうにラーメンを食べながら「誰かとしゃべれてうれしかった」と話してくれたゆうりくん。人と関わることや話すことの楽しさを自分の言葉で伝えてくれるようになったのは、大きな変化でした。

焚き火でマシュマロを焼いたり、ハロウィンの時には仮装を楽しんだり、高校生や大人のボランティアたちとも自然に関わる姿が印象的でした。なかでも「ダンボールマン」のヒーローショーは、特に心に残っているようで、高学年のお兄ちゃんたちが作った世界に目を輝かせながら参加していました。その後、ゆうりくん自身もダンボールで「でっかい冷蔵庫」や「フライパンなどのキッチン用品」を作り、おままごと遊びを展開していきました。自分のイメージを形にし、それを他の子と共有することで、遊びがどんどん広がっていく姿が見られました。

調理体験では包丁を使うことにも挑戦しています。初めての道具に少し緊張しつつも、ボランティアのスタッフや少し年上の利用者と一緒に取り組むことで、安心して楽しめている様子でした。中でも自分で作ったチーズラーメンは格別だったようで、「もっとほかのも作ってみたいなぁ」と自分からリクエストしてくれるようになったことが、私たちにとっても大きな喜びです。

こうしたさまざまな経験を通して、ゆうりくんは「自分のやりたいこと」を伝え、それを周りの人と一緒に形にして楽しむ力を身につけています。この場所が、彼にとって安心して表現できる居場所となっていることを実感します。

（NPO法人にじいろクレヨン スタッフ）





［スタッフの声］

子どもたちが自分らしく過ごせる放課後プログラムの運営

一般社団法人まるオフィス / スタッフ 加藤 航也



私たちまるオフィスは宮城県気仙沼市に拠点をおく教育＆まちづくりNPOです。これまで中高生を対象にテーマや問いを持って地域で実践する探究学習のサポートをしてきました。2023年からは気仙沼市唐桑地域の小学生を対象に、探究学習に欠かせない好奇心を育む放課後プログラム「放課後たんけん」を立ち上げました。放課後たんけんでは「運動あそび」や「地域たんけん」といったプログラムを行っています。

放課後たんけんを開始してすぐの頃、入学して半年以上経った1年生の男の子が、「放課後に友だちと遊ぶのは初めて！」と発言したことに衝撃を受けました。唐桑地域では小学校の統合に伴いスクールバス通学をしている子どもも少なくありません。また、家々が離れているため、放課後にランドセルを置いて近所の友だちと遊ぶことも当たり前ではありません。このような背景もあり、放課後に遊ぶ機会が少ないという保護者の声を受けて始めた事業ではありましたが、小学生本人から直接その思いを聞くのは、この時が初めてでした。

その後も事業を通して様々な場面を見てきました。学校や家庭ではいわゆる“優等生”である子が、大声を出して思いっきり遊んだり、ときには友だちと泣きながらケンカをしたりと、いろんな表情を見せてくれています。問題が起こった時に大人が介入しなくても子どもたちだけで話し合い、意見をまとめる場面も見受けられました。そうしたことから、子どもたちに必要なのはプログラムだけではなく、学校でも家庭でもない場所でそれぞれが自分らしく過ごせる時間なのだと改めて気づかされました。

これまでも改善をしながら運営をしてきましたが、今後はスタッフだけが考えるのではなく、子どもたちが自ら考え、放課後たんけんでの過ごし方を創っていけるような場づくりを目指していきたいと考えています。

私たちはこれまでの実践を通して、放課後の過ごし方をより充実させることで子どもたちが多様な経験をし、好奇心を育むことができると確信しています。気仙沼市全体の小学生の放課後が充実するよう、理解者や仲間を増やしながら活動を続けていきたいと思います。





2024年度の支援実績

2024.4/1_2025.3/31

一般社団法人イトナブ石巻

宮城県石巻市 / 小学生〜高校生　　助成額：4,350,000円



子どもたちが自ら成長する力を育むための KIZUKIT BASE（キズキットベース）

延べ1,164名の子どもたちへ
デジタル技術に触れるきっかけを提供

KIZUKIT BASEは「子どもたちの居場所づくり」と「学ぶきっかけづくり」を重視しています。2024年度は延べ1,164名にデジタル技術と出会う機会を提供しました。子どもたちはプログラミングやゲーム制作などを楽しみ、論理的思考力や創作力を育んでいます。また、それぞれの知識を教え合うことで、他者との関係を深めています。こうした体験を通じて、子どもたちに「未来を切り拓く姿勢」が備わるよう日々の活動に寄り添っています。

居場所機能を備えた学習支援と次世代育成事業

中高生向け無料学習会を実施
（年間224回、延べ2,932名が参加）

経済的困難を抱える家庭の多い仙台市にて、中高生向けの無料学習会を実施しました。学習支援以外にも、キャリア教育、体験活動、季節行事などを行い、様々な人と交流する機会を提供しました。また、進路相談や奨学金などの情報提供にも力を入れました。2024年度はキャンプ体験やIT教育支援にも取り組み、多方面から学びを支援しました。外国ルーツの生徒への就職支援や通信制高校に通う生徒への学習支援等、多様なニーズにも柔軟に対応しました。

認定NPO法人キッズドア

宮城県仙台市 / 中学生〜高校生　　助成額：9,000,000円



認定NPO法人底上げ

福島県楢葉町 / 未就学児〜小学生　　助成額：4,250,000円



ならはこどものあそびば事業

「こころが動く」を大切にできるあそびば

幼児や小学生の子どもたちが集う遊び場兼居場所「ならはこどものあそびば」の活動を行っています。自分の『きもち』を大切にすることをテーマに、創作活動や遊びを通しての自己表現を見守っています。うれしい・たのしい・いやだ・かなしいなど、いろんなきもちをそれぞれが表現し合い、子どもたち同士、工夫をしながら自分らしくいられるように日々過ごしています。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

岩手県・宮城県・福島県全域 / 小学生～高校生　助成額：9,000,000円



スタディクーポン提供事業

362名の子どもたちにクーポンを提供

経済的困難を抱える家庭の子ども362名に対し、学習塾や習い事で利用できるスタディクーポンを提供しました。クーポンを受け取った92.3%の子どもが実際に利用し、新たな学びにつながりました。また、月に1回、大学生ボランティアが面談を実施し、クーポンの利用や進路、さらには日常生活における困りごとまで、幅広いサポートを行いました。面談により、希望進路の実現のほか「自分の気持ちを人に伝えやすくなった」など子どもたちの心理的負担が軽減する副次的効果も見受けられました。

NPO法人TEDIC

宮城県石巻市 / 小学生～若者　助成額：8,000,000円



子どもたちが多様な人との関わりや体験活動を通じ、安心できる関係を築く拠点づくり

年間117回開催！
3拠点でつながる子ども・若者と地域の大人

「心身のケア」「豊かな食生活の支援」「自由な環境の提供」などの特色ある3つの拠点を運営しました。子ども・若者が利用する中で、今まではなかった関わり合いが生まれ、新しいことにチャレンジする姿もありました。さらに、積極的に地域の大人に向けて研修会の開催や拠点参加の声がけをしたことで、子ども・若者と地域の現状に向き合い、この地域でどのように子ども・若者を応援していけるのか考えるきっかけをつくることもできました。

NPO法人トイボックス

福島県南相馬市 / 小学生～高校生　助成額：9,000,000円



子どもや子育て世帯への支援を行政・地域と連携して実践するまちづくり

放課後児童クラブ含む子どもの居場所を3箇所運営
親子体験イベントを開催（500名以上の親子が参加）

毎年行っている南相馬キッズフェスタを今年も開催しました。巨大ダンボール迷路の設置や地域の方々を講師に招いたワークショップを6種類から10種類に増やすなど、規模を拡大しました。キッズフェスタを通して、保護者との接点が生まれ、居場所拠点の認知度も広がり、徐々に問い合わせ件数も増えています。子どもの居場所事業では、日々の見守り・遊び・学習のサポートに加え、野菜作りやしめ縄作りなど、体験活動も積極的に行いました。

NPO法人にじいろクレヨン

宮城県石巻市 / 未就学児〜高校生　　助成額：4,000,000円



にじいろみんなの居場所プロジェクト

アートと農園を活かした居場所づくり（181回開催、延べ2,297名が参加）

アート活動では、子どもたちが自由に過ごし、思い思いの表現を楽しんでいます。最初は絵を描くのが苦手だった子が、1年後には「見て見て！」と自信満々に作品を披露する姿も見られました。畑では、野菜を育てたり、焚き火でマシュマロを焼いたり、友達を誘っておにぎり作りに挑戦したりと、笑顔あふれる時間が広がりました。子どもも大人も自然に助け合いながら、安心して挑戦できるあたたかな居場所が育まれています。

女川町の子ども・若者の「学ぶ」を創出する居場所、女川向学館

延べ10,000名以上に学びと支援と居場所を提供

女川向学館は、女川町の子ども・若者が安心して学び、成長できる『サードプレイス』を提供しています。町内の小中学生の50%以上が利用し、学習支援に加え、工作イベントや企業連携のキャリア学習プログラム、野外体験活動など、多様な学びを届けています。大学生インターンや地域ボランティアの協力のもと、子どもたちの日常を支え、非日常の体験を提供することで、地域に根ざした活動を展開しています。

一般社団法人まちとこ

宮城県女川町 / 小学生〜若者　　助成額：9,000,000円



一般財団法人まちと人と

宮城県石巻市 / 高校生　　助成額：5,000,000円



高校生の「自己実現力」を育む活動

高校生延べ954名に学校内外を通して自己実現できる機会を提供

高校の総合的な探究の時間の授業を通して、延べ823名の高校生に地域と自分自身の興味関心を結びつけ、挑戦できる機会をつくりました。また、授業外での自主的な挑戦ができる地域ボランティア「まきボラ」に延べ131名の高校生が参加し、日常的に地域とつながる機会を提供しました。授業内外を通して高校生が主体的に地域と関わり、「自分のやってみたい」を突き詰めるとともに、次の一歩を踏み出すきっかけとなりました。

一般社団法人まるオフィス

宮城県気仙沼市 / 小学生　　助成額：5,200,000円



子どもの好奇心を育む放課後プログラム 放課後たんけん

子どもたちが身体を動かし、地域に飛び出し、放課後を思いっきり楽しむ！（33回開催、延べ1,157名が参加）

基礎体力の向上やコミュニケーション能力を育む「運動あそび」と地域に飛び出して五感を使った体験をする「地域たんけん」の2軸で「放課後たんけん」を運営しました。運動あそびでは風船バレーやしっぽとりなど、全学年が全力で楽しめる運動を行いました。地域たんけんは地域の方の協力のもと、食べられる野草探しや果物の収穫のほか、落ち葉等を使用したてぬぐいづくりも開催しました。地域の中で小学生が思いっきり遊べる環境をつくることで、探究心の基礎となる好奇心の“種”を育てていきます。

子どもの希望と意志を育むための居場所づくりと段階的な体験活動および地域活動支援事業

延べ1,641名の子どもたちに居場所を提供
延べ169名の小学生の体験機会を創出

子どもたちが自由に過ごすことができるサードプレイス「みやっこハウス」を運営しました。延べ1,641名の子どもたちが訪れ、様々な人との交流などから、家や学校とは異なる日常を楽しみました。小学生向けには「みやっこファーム」「みやっこネイチャークラブ」「みやっこおしごと探検隊」などの体験プログラムを開催しました。延べ169名の子どもたちが自然や産業など宮古市内の豊富な資源を楽しみながら体験し、好奇心や挑戦心、地域への愛着を育む機会を作ることができました。

NPO法人みやっこベース

岩手県宮古市 / 小学生～高校生　　助成額：7,000,000円



一般社団法人未来の準備室

福島県白河市 / 高校生　　助成額：6,200,000円



地域活動マッチングプラットフォーム「うずうず」の深化 ～高校生による本質的な地域課題解決の伴走モデル構築～

延べ115名の高校生がボランティアに参加し社会へのアクションを起こす！

地域活動マッチングプラットフォーム「うずうず」の体験から本質的な地域課題解決プロジェクトを生むことを目標に、30種類115名のボランティア活動を支援しました。単なるボランティアだけでなく、専門家を呼んだ体験型ワークショップや、先輩や地域の方の“マイプロジェクト”に出会うきっかけを通して、自らの課題意識や好きなことから探究活動を始める高校生の伴走支援を行いました。

会計報告

［公益社団法人ハタチ基金　決算報告］

正味財産増減計算書　2024年4月1日 ～ 2025年3月31日　　（単位：円）

科　目				2024年度実績
一般正味財産増減の部	経常収益	受取寄付金		52,401,000
		受取寄付金振替額		58,493,161
		雑収益		23,583
				経常収益計　110,917,744
	経常費用	1. 事業費	人件費	0
			助成金	80,000,000
			事務局運営費	6,846,425
			その他事業費	15,069,258
		2. 管理費	人件費	600,000
			事務局運営費	2,532,239
			その他事業費	5,869,822
				経常費用計　110,917,744
	当期一般正味財産増減額			0
	一般正味財産期首残高			1,096,100
	一般正味財産期末残高			1,096,100
指定正味財産増減の部	受取寄付金			111,342,254
	一般正味財産への振替額			▲58,493,161
	当期指定正味財産増減額			54,372,371
	指定正味財産期首残高			359,987,434
	指定正味財産期末残高			414,359,805
正味財産期末残高				**415,455,905**

●残高は2025年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
●呼びかけ人の皆様からのご寄付については一般寄付とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。●ご都合のよい時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する活動のために活用させていただきます。

2024年度 公益社団法人ハタチ基金助成事業について

助成件数：12件

助成金額：80,000,000 円

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をくださりありがとうございます。
ハタチ基金では個人寄付・法人寄付でのご支援を承っております。
今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

銀行振込

【 三菱 UFJ 銀行 】
高円寺支店（店番号：155）
口座名義：公益社団法人ハタチ基金
口座番号：0144274（普通）

個人の寄付　法人の寄付

※大変恐れ入りますが、振込手数料はご負担をお願いしております。

ご支援いただいた皆さま

ハタチ基金では、2024年度、多くの企業・団体さまからのご寄付をいただきました。
継続的にご支援くださる企業・団体さまも多く、ポスターやチラシの作成・配布など、
子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。

アズワン株式会社

株式会社一ノ蔵

株式会社大垣共立銀行

株式会社クオカード

KDDI 株式会社

ダイドーグループホールディングス株式会社

株式会社ティーシーエス

株式会社東京書芸館

トヨタ S&D 西東京株式会社

株式会社ホッタ

維摩池周回チャリティーマラソン / 株式会社インフォマート / 株式会社オフィスビーワン / 一般財団法人カクテル文化振興会 /
共同カイテック株式会社 / 一般社団法人協立科学技術振興会 / 株式会社グッドスポーツ / 株式会社グランド・ワン / 劇団にこっとちゃ茶 /
株式会社CORE技術研究所 / 医療法人さき山歯科クリニック / 株式会社サンベール / J-POWERグループユニオン / 株式会社ジノ・ソニック /
株式会社シンセ / 株式会社生活総合サービス / 株式会社セールスフォース・ジャパン / 株式会社WJプロダクツ /
NPO法人Dance Association Seeds / チャリティALOHA市場 / つながる箱 / T-ハウジング / 真宗大谷派 徳蓮寺 / 日油株式会社 /
一般社団法人日本サロネーゼ協会 / ハタチ基金チャリティコンサート2024 / 2024年7月ハタチ基金チューリッヒチャリティーコンサート /
BSN愛の募金 / 株式会社東日本放送 / 法政大学第二高等学校 / 松谷商事株式会社 / 株式会社馬里奈 / 三菱UFJニコス株式会社 /
モスバーガー共栄会東北支部 / 株式会社ライフコミュニケーション / LINEヤフー株式会社 / 株式会社ラピート / リンクアンドサポート株式会社 /
Yシャツバンク＆ホワイトボタンボランティア / ※ 敬称略・五十音順

※ その他、たくさんの企業・団体さまからご支援をいただきました。

支援者様からのメッセージ

企業寄付者様からのメッセージ

日油株式会社

日油は「バイオから宇宙まで、化学の力で新しい価値を創造し、人と社会に貢献する」という経営理念のもと、1937年の創立以来、さまざまな産業分野で時代に応じた製品を供給している化学メーカーです。
当社は「東日本大震災発生時に0歳だった赤ちゃんが20歳を迎えるまで」という趣旨に賛同し、2015年からハタチ基金への寄付支援を行っています。
震災から10年以上が経過し課題は変化していますが、子どもたちの成長や自立を応援する思いに変わりはありません。ハタチ基金の皆様の尽力に敬意を表するとともに、未来を担う子どもたちが希望を持ち笑顔で成長できるよう、これからも支援を続けてまいります。

個人寄付者様からのメッセージ

- 昨年ハタチ基金をネットで見つけて寄付を始めました。ハタチ基金がある限り、支援を継続していくつもりです。寄付の場を設けていただきありがとうございます。僅かで恐縮ですが、何かのお役に立てますように。
- 私自身も福島県出身です。今は遠くて直接的な支援は限られますが、少しでも被災された子どもたちへの力にしていただけたら嬉しいです。
- 石巻の大川小学校を訪れ、多くの児童が津波の犠牲になったことを改めて知りました。わずかな金額ではありますが、東北の子どもたちに使っていただけたらと思います。

ハタチ基金

●各種変更をご希望の場合

寄付金額、クレジットカード、領収書の宛名変更等のお問い合せは
右記 QR コードまたはメールにてご連絡ください。

●遺産・相続財産の寄付をご検討されている場合

まずはメールにてご相談ください。

メールアドレス
info@hatachikikin.com

お問い合わせ